

Social Contribution

社会貢献

社会と未来につながる貢献の輪を広げます

川崎重工グループは、事業外の社会貢献活動においても、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する」というグループミッションに立脚し、自社の強みを活かしつつ社会の期待に応える取り組みに注力していきます。

目指す姿

地域社会・日本社会

地域社会と共生・連携し、未来の夢のテクノロジーを担う次世代の育成を支援します

国際社会

世界の国々の文化を尊重し、技術や人財の育成を通じて豊かさの実現に寄与します

中期経営計画「中計2010」(2010~2012年度) 期間中の取り組み総括

「中計2010」期間中は、各種寄付金や東日本大震災への支援をはじめとする各地への災害義援金のほか、自主プログラムとして、企業ミュージアム「カワサキワールド」の運営や、主に子どもを対象とした各種のイベント開催、文化・スポーツへの協賛、

地域経済振興への協力、企業の森づくり活動などを行いました。

今後は社会貢献ビジョンと方針をより明確にし、推進体制を構築するとともに、次世代育成支援活動の自主プログラムの拡大を推進します。

■ 取り組みの自己評価

個別領域	取り組み項目	3年間の自己評価(平均)		
		2010年度	2011年度	2012年度
社会貢献	社会貢献基本方針・重点分野の制定・公開	★★★★★	★★★★★	★★★★★
	社会貢献活動支出額の公開	★★★★★	★★★★★	★★★★★
	社会貢献の自主プログラム推進	★★★★★	★★★★★	★★★★★
	進出先国状況の把握とそれを踏まえた活動	★★★★★	★★★★★	★★★★★

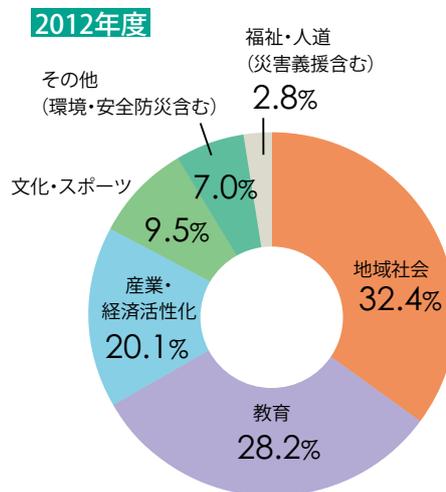
★これから取り組みたい ★★ある程度は取り組んでいる ★★★かなり取り組んでいる ★★★★十分だがさらに向上させていきたい

■ 社会貢献支出状況

単位:百万円

個別領域	2010年度	2011年度	2012年度
地域社会	164	226	223
教育	153	164	194
産業・経済活性化	120	142	137
文化・スポーツ	55	55	65
福祉・人道(災害義援含む)	232	190	20
その他(環境・安全防災含む)	13	19	48
計	737	796	687

当年度経常利益	49,136	63,627	39,328
対経常利益率	1.50%	1.25%	1.75%



・寄付・協賛金、現物給付、社外組織への協力依頼に関わる費用、社外組織に派遣した従業員の労務費(当社負担分)等を含みます。

・従業員の内部労務費・施設使用に関わる経費は含みません。

中期経営計画「中計2013」(2013～2015年度)期間中のありたい姿と施策

ありたい姿	施策
グループとしての社会貢献ビジョン、基本方針、重点領域を明確化し活動を推進している	・ビジョン、基本方針、重点領域、各組織の役割の具体化・明確化
社会貢献自主プログラムを推進している	・社内体制の構築、活動強化、当社への期待の把握と活動への反映

Topic 1 マイヘリコプターをつくろう!

南三陸町、陸前高田市で実験工作教室を開催

当社グループでは、社会貢献活動を通じて「技術の素晴らしさ」や「ものづくりの大切さ」を多くの子どもたちに感じてほしいとの願いから、当社製品であるヘリコプターの技術をベースとした、小学生向け実験工作教室プログラム「マイヘリコプターをつくろう!」を開発、実施しています。2011年度の開始以来、これまで大阪、宮城、岩手の3府県で開催し、延べ約140名の子どもたちが教室に参加しました。

2012年度は、次世代の育成応援と東北地区の復興支援の二つの目的で、10月26日・27日の2日間、宮城県と岩手県にある3つの小学校の児童77名とその保護者を対象に、同実験工作教室を開催しました。

教材のヘリコプターも実験工作教室用に開発した当社オリジナルのもので、当社従業員がコーチとなり、子どもたちがバルサ材でヘリコプター本体とローターを組み立てながら、ローターの揚力を測定したり、本体の回転を止める技術などを試したりと、「学ぶ」「つくる」「楽しむ」「工夫する」という要素を一度に体験できる内容です。子どもたちはコーチのアドバイスを受けながら、休み時間も忘れ夢中で取り組んでくれました。

当社グループは今後も地域社会と連携し、事業を通じた社会貢献の形を模索し、取り組んでいきます。



休み時間も忘れ、工作に夢中です



マイヘリコプター

■ 子どもたちの声(77名)

	そう思う	少し そう思う	あまり 思わない	そう 思わない
コーチの授業はおもしろかったですか?	72	5	0	0
班のコーチとお話は楽しかったですか?	63	13	1	0
授業を受けて、自分でも何かをつくってみたいと思いましたか?	55	15	6	1
また学校にきてもらいもっと多くの授業をしてもらいたいと思いますか?	72	5	0	0

■ 保護者の声(22名)

	そう思う	少し そう思う	あまり 思わない	そう 思わない
コーチの授業はおもしろかったですか?	20	2	0	0
今回のような実験工作教室にまたお子様を参加させたいと思いますか?	21	1	0	0

■ 「教育CSR大賞2012」で教材開発部門賞を受賞

2012年12月22日、本プログラムは(株)リバネスが主催する「教育CSR大賞2012」において、「教材開発部門賞」を受賞しました。詳しくは以下Webサイトをご覧ください。

<http://www.kyouikuouen.com/award2012/>



表彰式



プレゼンテーション

Topic 2 マイクレーン車をつくろう! -「サイエンスヤード2013」に参加-

2013年3月20日、関西地域の小学生を対象にした科学技術体験イベント「サイエンスヤード2013」(株)リバネス主催)に、昨年に引き続き参加しました。

当社では毎年このイベントに向けて自社製品を素材とした教育プログラムを開発しています。2012年度は油圧製品の仕組みを活かしたプログラムを開発し、実験工作教室を実施しました。

大きさの違う2つの注射器を使って「パスカルの原理」を体験したり、実際にクレーン車の模型を組み立て、小さな力で重い物を持ち上げたりしながら「科学技術の素晴らしさ」と「ものづくりの楽しさ」を体験してもらいました。このような技術体験を通じて一人でも多くの子どもたちが、「大人になったらエンジニアになりたい。」と思ってくれることを期待しています。



マイクレーン車製作の様子

■ 子どもたちの感想

- うまく、はやくできた。大小のちゅうしゃきのおしあいは、まさか小がかつとはおもわなかった。
- クレーンがどのようにして重い物を持ち上げるのか、この作業を通してわかった。
- パスカルの原理は他にもどんな所で使われているのか調べてみようと思います。
- ちゅうしゃきでクレーン車がつくれるなんてびっくりしました。少しむずかしかったけど、できればとでもうれしかったです。とてもたのしかったです。
- 家に帰ったら改造もしてみたい。

Topic 3 「サイエンスフェア in 兵庫」に出展

2013年1月20日、「第5回サイエンスフェアin兵庫」に出展しました。兵庫県内外の高校生や高専生が、理数分野での日頃の研究活動を発表するとともに、大学・企業・研究機関などとも交流する催しです。

当社は第2回から毎年出展しており、今回は上記の「マイクレーン車をつくろう!」のプログラムを使って、油圧技



当社ブースに集まる学生たち

術の原理と適用事例を紹介しました。

このような交流を通じて、多くの高校生や高専生が科学への興味や関心を深め、「将来の自分探し」のヒントにしてくれればと考えています。

■ 参加者の声

コーチとして参加しました

日頃あまり目に見えない油圧機器がどこで活躍しているか知ってもらえることができたと思います。

「なぜ油でないとイケないのか?」というような素朴な質問をされ、私たちが油圧機器を理解してもらうためにはどう説明したら良いのか学ぶことができました。



精密機械カンパニー
技術本部 システム技術部
産業装置課
富永 健一

Topic 4 「世界青年の船」事業 -神戸で国際交流活動-

2013年2月15日、内閣府が実施している青年国際交流事業「世界青年の船」の神戸港寄港に合わせ、参加青年43名と交流活動を行いました。

本事業は、日本と世界の10カ国の青年が、19日間にわたり、「世界青年の船」で生活を共にし、船上、寄港地(那覇市・神戸市・大船渡市)および訪問国において各種の交流を行うことを通じ、国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年の育成を目的としています。

若手を主体とした当社メンバーと共に、企業ミュージアム「カワサキワールド」を見学した後、当社グループのCSRの取り組みについての講義や昼食時の交流等を通じて、お互いの理解と友好を深めました。



船上での講義



参加青年との交流

■ 参加者の声

スタッフとして参加しました

参加者の国によっては、鉄道がない国もあり、カワサキワールドの新幹線の実物や鉄道の製造紹介ビデオについて、興味を持って見学していました。改めて、当社が社会インフラを支える企業であり、その社会的使命を感じた次第です。



総務本部 総務部
総務・秘書課
佐竹 則彦

Topic 5 森づくり活動を通じた自然共生社会実現への取り組み



高知県：新入社員の森林整備活動

当社グループは、自然と共生する社会の実現を目指して、高知県、兵庫県、宮城県の3カ所で、生態系保全のための環境保護活動に取り組んでいます。

最初の活動地である高知県仁淀川町では、企業と地元自治体が協働して森林の再生に取り組む高知県「協働の森づくり事業」に2007年から参画し、毎年、新入社員が参加して間伐などを行っており、地元の方々との交流も深めています。

兵庫県多可町では、兵庫県が実施している「企業の森づくり事業」に2008年から参画しています。春と秋には社内に参加者を募り、2013年4月までに延べ約880名の従業員



兵庫県：従業員による間伐作業

と家族が植樹や間伐などの森林保全に取り組みました。

また、整備した森林によるCO₂吸収量は、2012年までの4年間で33.35t-CO₂となり、このことを認証する「CO₂吸収量認証書」が多可町から交付されています。

2011年からは、宮城県仙台市でも森林整備活動を開始し、震災被災地での地域貢献活動として、仙台市内の当社事業所勤務者がNPO団体と共に市街地近郊の里山で枝打ち・間伐を行っています。



宮城県：NPO団体との枝打ち作業

各地での森づくり活動を地域社会と協働して推進することで、人と自然の共生の実現に貢献していきます。

Topic 6 「神戸マラソン2012」ゼッケンスポンサー

2012年11月25日、2011年に引き続き、神戸マラソンの男子ゼッケンスポンサーとして協賛しました。また従業員の有志(160名)も、沿道での給水ボランティアとして、神戸の街を駆け抜けた約2万人のランナーを応援しました。



給水ボランティア

Topic 7 地域社会交流会(明石工場)

2012年11月23日、近隣地域の小中学生とその家族計112名をお招きし、バスツアーでの明石工場見学と、企業ミュージアム「カワサキワールド」の見学を楽しんでいただきました。本交流会の開催は今回で2回目です。

工場では、岡本事務所長から明石工場の歴史や仕事についての紹介とあわせて「地域とともに発展する工場でありたい」との挨拶をしました。お昼は工場の食堂で従業員と同じ工場食を食べていただきました。

カワサキワールドでは、「何をつくってみたい?」というインタビューに、小学校低学年の男の子が「ロボットです!」と目をきらきら輝かせて答えてくれました。



明石交流会

東日本大震災復興支援2012

パーソナルウォータークラフト「ジェットスキー」の寄贈

2013年3月6日、宮城県松島町に、沿岸部の漁業の復興支援と今後の緊急時の備えとして、「ジェットスキー」1艇(Jet Ski STX-15F)を寄贈しました。



引き渡しの様子



Jet Ski STX-15F

遺児の心のケアセンター
「東北レインボーハウス」建設支援

2013年3月、親を亡くした子どもたちの心のケアを目的として、あしなが育英会が進めている「東北レインボーハウス」の建設資金として200万円を寄付しました。

*レインボーハウスは阪神・淡路大震災後の1999年に、初めて神戸市に開設されました。